

## 講義ノート

キャストパーシャルデンチャー特論  
～誰でも簡単にわかる・できるキャストパーシャル～

臨床教授 金 井 孝 行

## はじめに

今回の講演テーマである「誰でも簡単にわかる・できるキャストパーシャル」は、現在歯科技工士または、歯科技工士を目指して頑張っている学生でキャストパーシャルを作りたい人を対象に、口腔内の歯周組織を始めキャストパーシャルを作るうえでの必要な構造設計のスタンダード中心に作り方を理解して、確実に患者さんに使ってもらえ、噛めるキャストパーシャルデンチャーを理念としています。

近年は、高齢化がつづき今や超高齢化社会になってきています。2～3年後にはますます超高齢化が進みます。団塊の世代と言われている人たちが、定年を迎えて退職金をもらい老後を楽しむことになり

ます。

今、多くの業界がこの団塊の世代に大きな期待をよせています。

それは、超高齢化に対し今は、少子化でもありますが、子供製品は凄く好調であります。例えば、いりょうはいりょうでも服の衣料やゲームなどの娯楽産業は好調であります。子供が少ないと一人当たりにかかる単価や予算が多くなり結果的に好景気になります。

歯科界も団塊の世代が退職し老後を楽しく過ごすとしたら、食べることに對して大きな比重がかかると考えます。

そこで、歯科界ではこれから注目され伸びる分野として挙げられるのが、インプラントと義歯です。その中でもキャストパーシャルデンチャーだと考えます。今、進められている医療改革ですが、患者の負担が増えることでますます選べる義歯として注目されます。

インプラントは、確かに審美的にも機能的にも素晴らしい補綴物ですが、手術をするということが大

きなりリスクと考えられます。そう考えるのは私だけではないと思います。どんなに簡単にできるようになったとしても、敬遠される患者は多いかと思われます。それにコスト的にもかなりの負担がかかります。

ですが、キャストパーシャルデンチャーはコストの面でもそれほどの負担がかからない、審美的にもアタッチメントを使うことで解消されます。義歯の欠点とされている違和感や噛みにくさ、着脱に関しても装着感、咬合が安定し食事に支障がなければ、キャストパーシャルデンチャーを選んで頂けると思います。

しかし、インプラントもキャストパーシャルデンチャーも大事なことはセットしてそれで終わりではなく、始まりです。私達、歯科技工士は患者さんのニーズに応え基準構造設計を守ったうえでのリスクを課せられます。

このことを患者さんに説明し、何か月かに一度のメンテナンスに来てもらうことを患者さんに啓蒙し、良い状態で長く臓器の一部として使ってもらえることが、患者さんのリスクです。それには、デンタルスタッフそれぞれの役割があり協力で成り立ちます。

それにより、講義の中でもお話した歯科技工士の役割である『使ってもらえる義歯』を作るポイントの一つとして基準構造設計があり、またその中の設計であるスタンダードデザイン『仮称』(standard design)を中心に今回はお話ししたいと思います。

## スタンダードデザイン (Standard Design)

少し整理をしたいと思います。キャストパーシャルデンチャーを作る上でいろいろな工程がありますが、その工程の中の一つである設計と構造があります。

基本構造 スタンダードストラクチャー (standard structure) デジタル化.

基準設計 スタンダードデザイン (standard design) 口腔内の情報を参考に設計 (ルール) があると考えます.

口腔内には解剖学的情報があります. その情報を基準として設計を行うことが違和感の少ない『使ってもらえる義歯』のスタンダードデザインです.

例えば, 口腔内の情報として.

上顎では

正中口蓋縫線	口蓋小窩
切歯乳頭	口蓋隆起
上唇小帯	ハミュラーノッチ
口蓋皺襞	軟, 硬口蓋

下顎では

顎舌骨筋線	骨隆起
舌小帯	臼後三角
唇小帯	
頬小帯	

などがある.

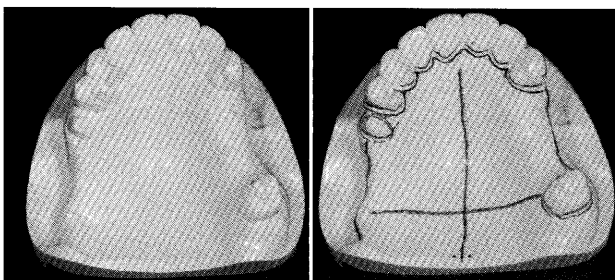


図 1

図 2

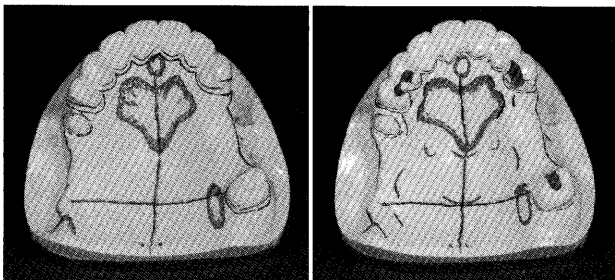


図 3

図 4

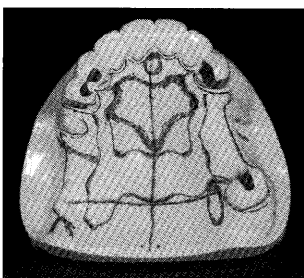


図 5

図 1 ~ 5 までの図を見てもらうと解るように, 上記に述べた口腔内の情報はほとんどが凹凸です. 口腔内の凹凸は主に痛いと感じやすい部分であると考えるので, その部分をできる限り避けるか, プレートなどの設計は全体的に覆う. ケースバイケースであるが凹凸の部分はできる限り横切る設計はしない. これが口腔内の情報を参考にしたキャストパーシャルデンチャーのスタンダードデザインです.

### おわりに

第一回臨床技工プロ講座キャストパーシャルデンチャー特論の講義を終えて, まだまだ伝えきれなかった点も沢山あり, わたしのいたらぬ点を反省致しました.

しかし, この臨床技工プロ講座は歯科技工士免許をとり社会にでて少し臨床になれて, 解らないことや疑問点などの解決の場とし, また, 興味をもった補綴に触れられ勉強もできる場だと考え, 若い歯科技工士にとってよい講座だと考えます.

これからの歯科技工界を築く多くの若い歯科技工士に参加して頂き, 患者さんのニーズに応えられ喜んでいただける歯科技工物を作り, 自信をもって仕事ができる歯科技工士の教育の場でありたい. わたしも講座を受ける歯科技工士さんと共に学び努力したいと考えます.

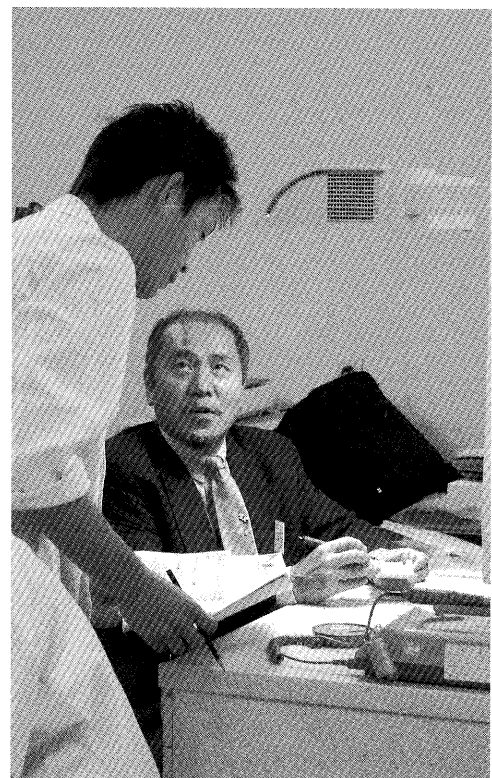


図 6 実習風景